

第8章 小野川水系における旧石器文化

重松 佳久

はじめに

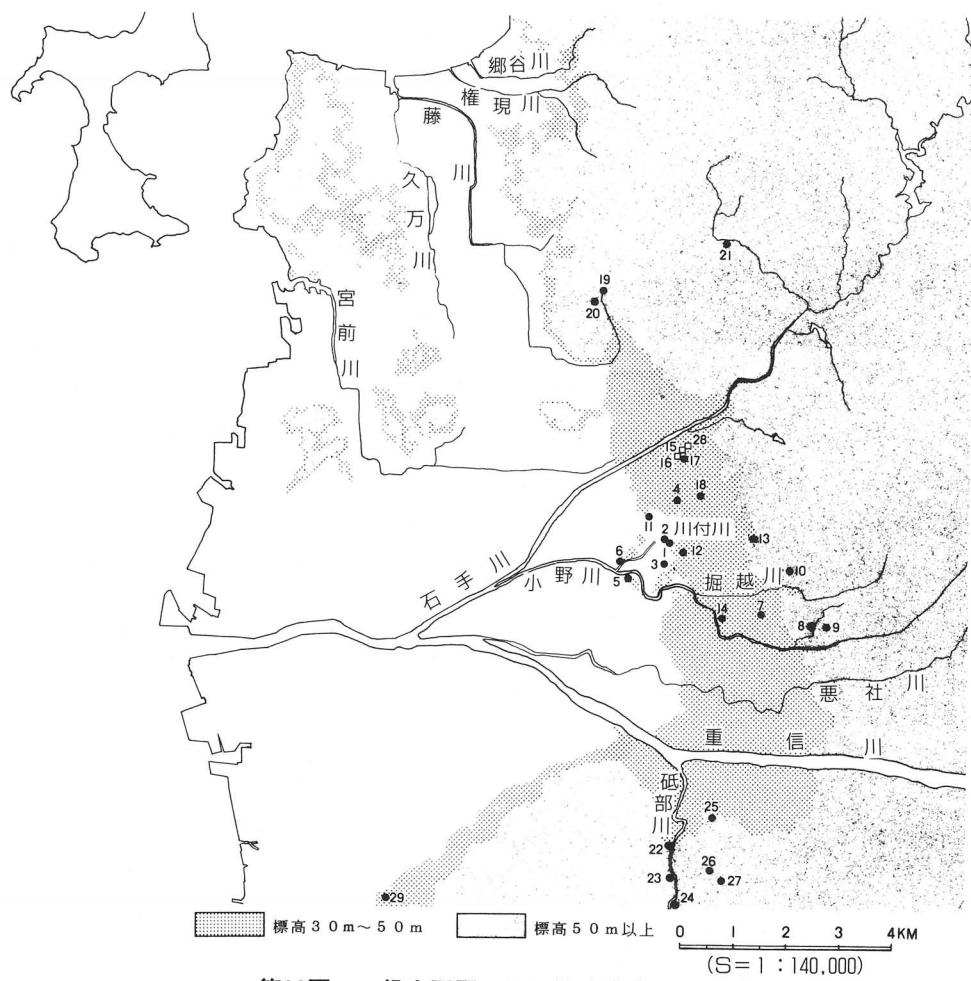
松山平野において、現存する水系軸の多くは、後世の河川改修や扇状地形形成過程により流路変更が余儀なくされ旧石器時代の流路復元を遺物分布や現地形に置き換え想定する事は、多くの問題を内包している。しかしながら、火山灰研究の進展・地質・地理学からのアプローチを受けて古環境の復元作業とともに考古学的視点からもおのずと松山平野を貫流する各水系軸に対する社会的基盤認識作業の必要性が問われる事となっている。こうした中で抽出される水系軸の不变性の論議を前提とした蓄積作業が不可欠と考えるが、あえてここでは、不勉強のため現小野川筋に位置し比較的遺物検出がなされている中流域を縦轄して小野川水系と仮称し旧石器時代遺物の概観にふれることとしたい。

1. 遺跡立地

近年、小野川流域の旧石器時代遺物が検出されている背景として、国道11号線の路線変更整備とあいまって急速に宅地化がすすむとともに小野川右岸河岸段丘上に広がる史跡来住廃寺跡周辺の関連遺構群の確認作業の中で縄文晩期から続く遺跡群の存在が検出されることとなった。これらの遺跡群の調査が進展すると同時に微高地・低位段丘において旧石器時代の遺物が散発的に検出されている。また、同水系における独立丘陵・山塊から延びる舌状台地端部等の高位段丘上においても古墳群の造成埋土及び貯水池の堰堤において地元収集家等の手により資料蓄積がなされている。従来、当地域の旧石器時代の遺跡分布から後者の独立丘陵・舌状台地など山塊縁部に集中するとされた遺跡立地は、様相を異とし微高地・低位段丘・埋没丘陵を含めた海拔約30M～50Mの平坦地位置（第38図）に中心的な立地の成立を見ることとし、遺跡立地の選択に際し立地環境を含めた意図的な相違を持つことが窺い知れる。また、現在までに検出されている愛媛県内の旧石器時代遺跡の分布は、島諸部を除けば松山平野中央を縦断する小野川水系にその集中を見る事ができるが、こうした状況は、旧石器文化研究不在の当地においても中流域における発掘調査密度の高さや洪積台地の残存度にのみ比例するだけともいいがたいものと考えられる。水系軸の中で残される遺跡群の立地に係わる選択は、ワークエリア内の活動拠点としての空間の占有を前提としているとともに安定した生活維持基盤の保証の上に成り立つものであり、そうした人類を取り囲む環境的保証を持つ立地の理解にあってはじめて意図された人類の痕跡を理解しうるものと考えられる。

さらに、標高約30M～50Mの平坦地遺跡の土層観察から、旧石器時代遺物の検出される立地条件として段丘礫層（時期不明）上位に被覆する黄色シルト層が比較的遺存する地域において後世の攪乱と同時に確認されていることが報告されており、黄色シルト層等関連層成因・年代の科学的な検討を要している。今後、遺物出土に係わる基本層位の認識もふまえ、現

小野川水系における旧石器文化

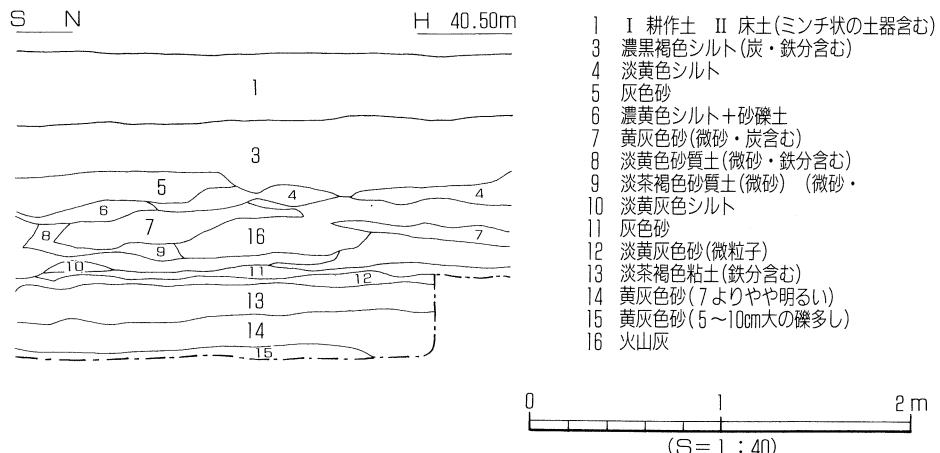


第38図 松山平野の旧石器時代遺跡

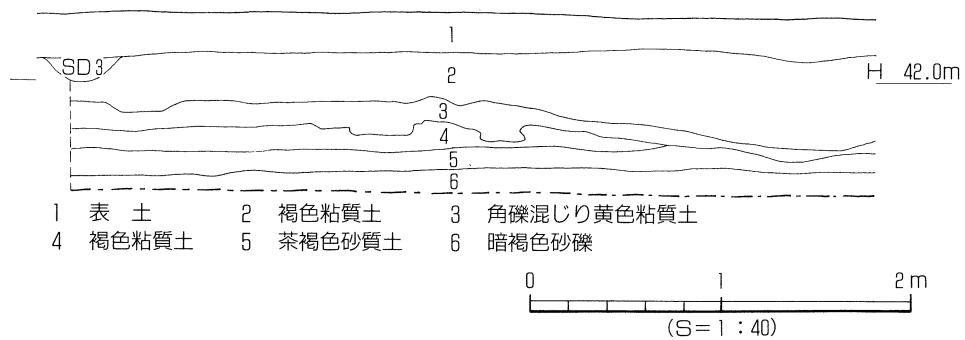
番号	遺跡名	水系名	標高	立地環境	遺物回収番号及び器種
1	笠置遺跡	小野川右岸	29.5m	平坦地	第4082
2	笠置遺跡 F区	小野川右岸	28.5m	平坦地	第4081
3	原岡登立遺跡 一次調査区	小野川右岸	24.3m	平坦地	第4084
4	桑原田中遺跡	小野川右岸	33.0m	平坦地	第42812
5	東山寺山遺跡	小野川左岸	33.0m	山頂	第4083
6	天山天王森遺跡	小野川右岸	30.0m	山頂	第4109
7	久米小学区遺跡 一次調査区	小野川右岸	約44.0m	平坦地	第4085
8	久米猪田遺跡 V区	小野川右岸	49.0m	平坦地	第4086
9	久米猪田遺跡 V区	小野川右岸	50.0m	平坦地	第4080・11
10	五郎谷金谷遺跡	小野川右岸	73.0m	山頂	第4107・8
11	釜ノ口遺跡 一次調査区	小野川右岸	28.0m	平坦地	有古尖頭器
12	福音寺小学校構内遺跡	小野川右岸	約30.0m	平坦地	楔形石核・剣片
13	久米山田遺跡	小野川右岸	37.0m	山頂前面	ナイフ形石器
14	久米高瀬遺跡 五次調査区	小野川右岸	35.0m	平坦地	楔形石核・剣片
15	榎井四反地遺跡	手川左岸	39.5m	平坦地	A7火山灰
16	西施美遺跡 一次調査区	手川左岸	38.0m	平坦地	A7火山灰
17	西施美遺跡 二次調査区	手川左岸	38.0m	平坦地	角錐状石器
18	鋸石山古墳遺跡 一次調査	手川左岸	39.6m	斜面	楔形石核・剣片
19	农谷丸山遺跡	手川右岸	90.0m	斜面	楔形石核・剣片
20	沢谷六丁堀遺跡	手川右岸	60.0m	斜面	楔形石核・剣片
21	伊台惣部遺跡	手川右岸	140~150m	斜面	第42813
22	長田遺跡	低窪川左岸	50.0m	斜面	楔形石核・剣片 台形石器
23	城ノ向遺跡	低窪川左岸	50.0m	斜面	楔形石核・剣片 スライバー・尖頭器
24	宮内大塚遺跡	低窪川右岸	58.0m	平坦地	繩文核・楔形石核・剣片
25	土原遺跡 VI区	低窪川右岸	60.0m	平坦地	ナイフ形石器
26	谷田池遺跡	重信川左岸	75.0m	斜面	楔形石核・剣片
27	西大池遺跡	重信川右岸	67.0m	斜面	楔形石核・剣片
28	榎末遺跡	手川右岸	約43.0m	平坦地	A7火山灰
29	上三谷岩遺跡	重信川左岸	36.0m	斜面	ナイフ形石器

遺 跡 立 地

樽味四反地遺跡西壁土層図



樽味遺跡北壁土層図



第39図 樽味四反地・樽味遺跡 A T 検出状況

〔解説〕始良Tn火山灰（AT火山灰）について

鹿児島湾北部を占める始良カルデラより噴出した始良Tn火山灰（AT）は、噴出年代を¹⁴C資料等により約2.1万～2.2万年前とされている。この降下テフラの分布は、日本列島をごく短時間で広く覆い、町田・新井（1976）によって関東地方から新潟・福島県の東北地方まで、広範囲にその存在が追跡されている。これにより、考古学・土壤学・火山学・年代学研究を確立する上で広域的時間示標層として重要な鍵層とされ、多方面からその研究がなされている。

近畿・中国・四国地方に於ても、AT火山灰の検出例が報告されており近畿地方では、AT火山灰は約10cm～20cm（町田・新井 1976）程度の厚さがあると推定され、奈良県二上山遺跡・高槻市郡家今城遺跡等からAT火山灰が旧石器文化層中に縦長剝片を中心とした遺物とともに検出されている。

中国地方では、岡山県の野原遺跡早風A地点からAT火山灰が確認され、瀬戸内地方に分布する多くのナイフ形石器と共に通するとされる遺物の検出があり、注目されている。

四国地方では、AT火山灰は約40cm～50cm（町田・新井 1978）の厚いテフラ層として堆積したと推定されるが、これまでに遺物と関連した明瞭かつ積極的な報告例は見られない。

近年、これら広域火山灰を層序へ利用される例は多いが、その示標テフラ層が一次的なものなのか二次的なものなのかという判定が重要な課題となっている。

（小笠原善治）

在確認されている樽味・樽味四反地遺跡（宮本 1988・梅木 1989）のA T火山灰等（第39図）の広域火山灰の当地域におけるあり方を詳細に検討し、旧石器時代遺物の出土層位に係わる基礎資料の理解と蓄積が急務と考えられる。

2. 遺物観察

小野川流域の旧石器時代遺物群は、瀬戸内を代表する国府期の遺物を含め瀬戸内技法を逸脱したと考えられるナイフをはじめ小形ナイフ形石器・角錐状石器・有舌尖頭器等の後期旧石器時代遺跡群が、十亀・長井両氏によって精力的に報告されている。こうした資料と一部重複するものであるが、同流域の石器群の中でナイフ形石器の範疇として捉えることが可能な資料を提示し、検討を加えることとした。

第40図1・2どちらもサヌカイト製資料であり、隣接する調査区より検出された資料である。1は、横長剝片を素材としたナイフ形石器で、右面はポジティヴ面で左側にはネガティヴ面よりの比較的甘い整形加工痕が見られる。整形調整部位は、左側縁の調整に終始し、一部先端部に意識的な作り出しの加工痕を有する。左面は、素材剝片のネガティヴ面2枚を留める。左側側縁は、ポジティヴ面からのプランティングが入念に施されている。底面・ネガティヴ面・主要剝離面の剝離方向が翼状剝片のそれと合致することから翼状剝片を素材にしているものと認められる。

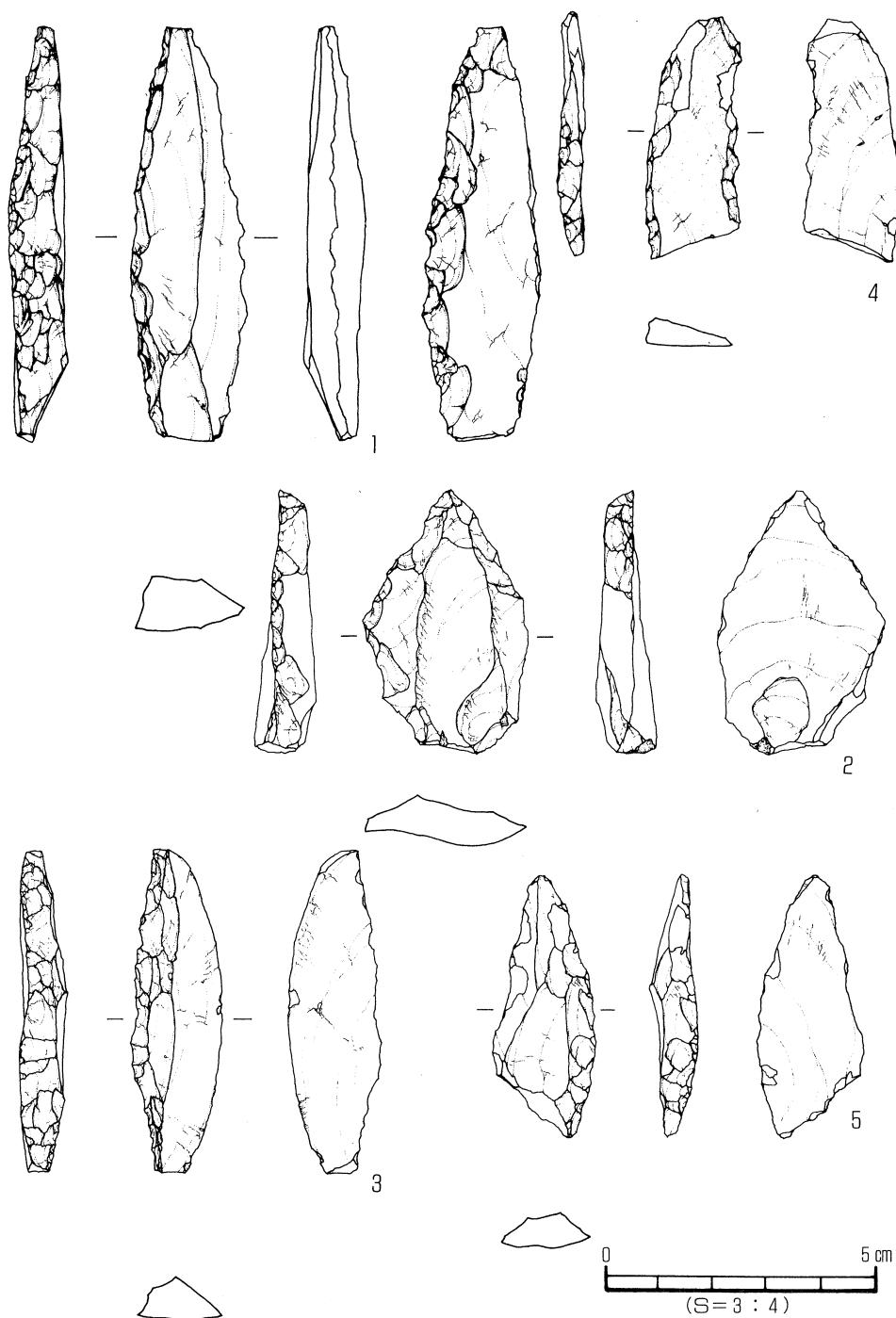
2は、サヌカイト製の不定形縦長剝片を素材としたナイフ形石器である。右面はポジティヴ面でポジティヴ・バルブが発達しバルバー・スカーが認められる。背面は、右刻調整時のネガティヴ面を残し、剝離方向は一定の方向を定めない。剝離調整部は、両側縁に認められ先端部と基部に意識的な作り出しの加工痕を有し、ポジティヴ面から比較的粗雑な整形加工が施されている。

3は、サヌカイト製の横長剝片を素材としたナイフ形石器で、右面はポジティヴ面で両側部が欠損している。左面は、素材剝片のネガティヴ面であり整形加工による剝離面で入念な整形加工が認められる。左側側縁は、ポジティヴ面からのプランティングが入念に施されて打面がカットされている。一部基部の作り出しにおいては背面よりの整形加工が見られる。底面・ネガティヴ面・主要剝離面の剝離方向が翼状剝片のそれと合致することから翼状剝片を素材にしているものと認められる。

4は、サヌカイト製の横長剝片を素材としたナイフ形石器で、風化が比較的進んでいる。右面は、ポジティヴ面で両側部が欠損している。左面は、素材剝片のネガティヴ面であり右側縁上端に小さく底部を留める。左側側縁は、ポジティヴ面からのプランティングが入念に施されて打面がカットされているネガティヴ面・主要剝離面の剝離方向が翼状剝片のそれと合致することから翼状剝片を素材にしているものと認められる。

5は、サヌカイト製の横長剝片を素材としたナイフ形石器で、右面はポジティヴ面でポジティヴ・バルブが発達しバルバー・スカーが認められ端部が欠損している。左面は、素材剝

遺物観察



第40図 松山平野の旧石器時代遺物(1)

片のネガティヴ面であり整形加工による剝離面でポジティヴ面剝離方向と同一方向の整形加工が認められる。素材剝片のネガティヴ面2枚を留める。右側側縁は、ポジティヴ面からのプランティングが施されて打面がカットされている。左側縁に底面を残す。底面・ネガティヴ面・主要剝離面が翼状剝片のそれと合致することから翼状剝片を素材にしているものと認められる。

6は、赤色チャート製の不定形横長剝片を素材としたナイフ形石器で、下部欠損状況と観察される。左面の右側縁はポジティヴ面からの入念なプランティングが施されて打面がカットされている。背面・主要剝離面の剝離方向が逆転することから翼状剝片のそれとは異なる剝片生産過程を経て採取された剝片素材に整形加工されたナイフ形石器と考えられる。

7は、サスカイト製の不定形横長剝片を素材としたナイフ形石器で、右面は、ポジティヴ面でポジティヴ・バルブが発達しバルバー・スカーが認められる。左面は、素材剝片のネガティヴ面であり左側に石核の底面を留める。左側側縁から基部にかけては、ポジティヴ面からのプランティングが入念に施されて打面がカットされ、整形加工により小形ナイフ形石器を呈する。背面ネガティヴ面・主要剝離面の剝離方向は、同一であり打点位置の移動が観察される。

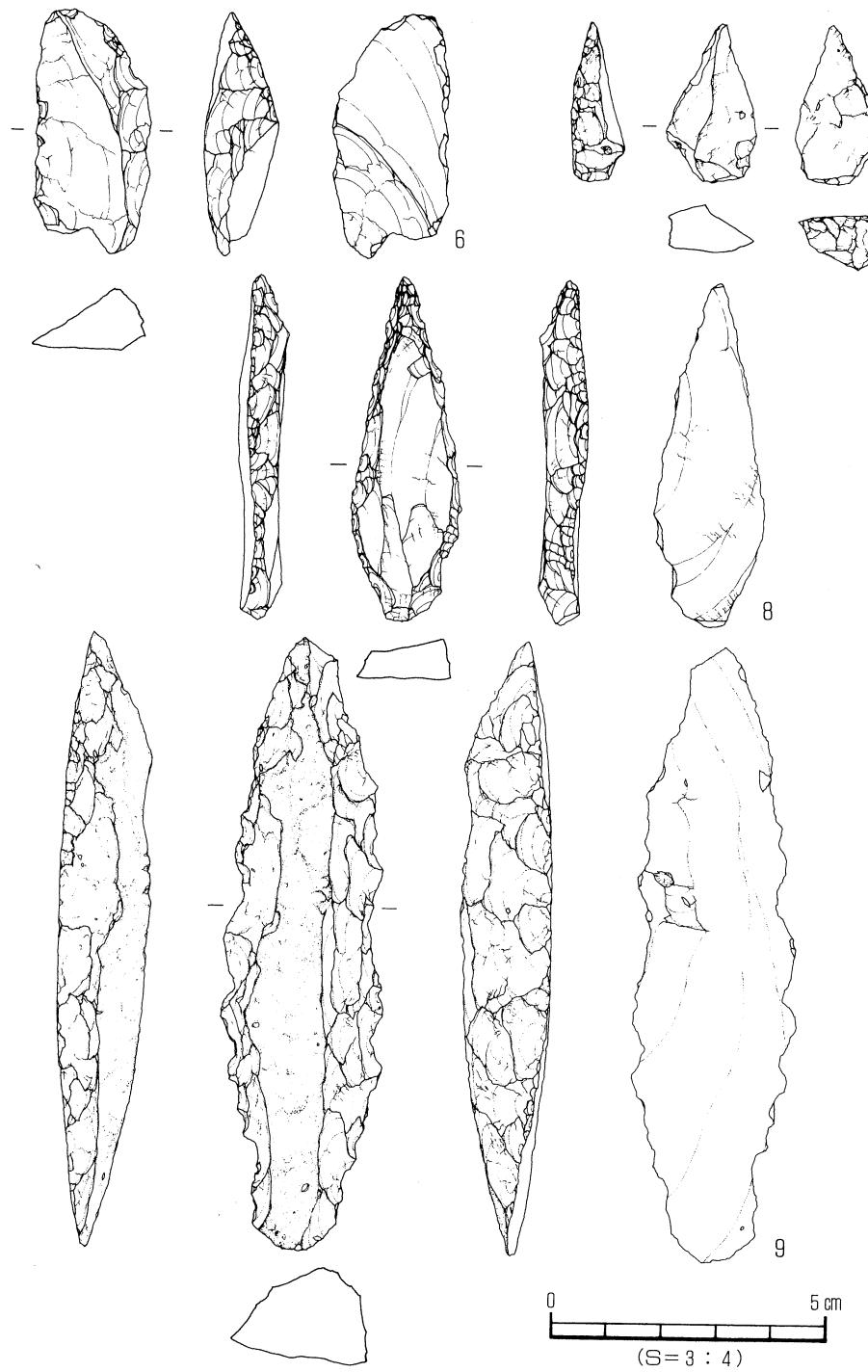
8は、ホルンフェルス製の横長剝片を素材としたナイフ形石器である。左面は、素材剝片のネガティヴ面であり整形加工による剝離面でポジティヴ面剝離方向と同一方向の整形加工が認められる。左側縁下位に底面を残す。両側縁は、ポジティヴ面から（先端部は一部陵上剝離）のプランティングが施されて特に先端部と基部に意識的な作り出しの加工痕を有し、断面台形状の角錐状石器（舟底形石器）を呈する。

9は、サスカイト製の礫面を残す大型幅広剝片を素材としたナイフ形石器である。右面は、ポジティヴ面でポジティヴ・バルブが発達しバルバー・スカーが認められる。意識的に素材剝片の剝離方向に対して垂直（横長）に素材を取りポジティヴ面からの角度の比較的粗雑な整形加工が施されて打面がカットされている。背面中央には、礫面を留める。両側縁は、ポジティヴ面からのプランティングが施されて断面台形状の大形角錐状石器（舟底形石器）を呈する。

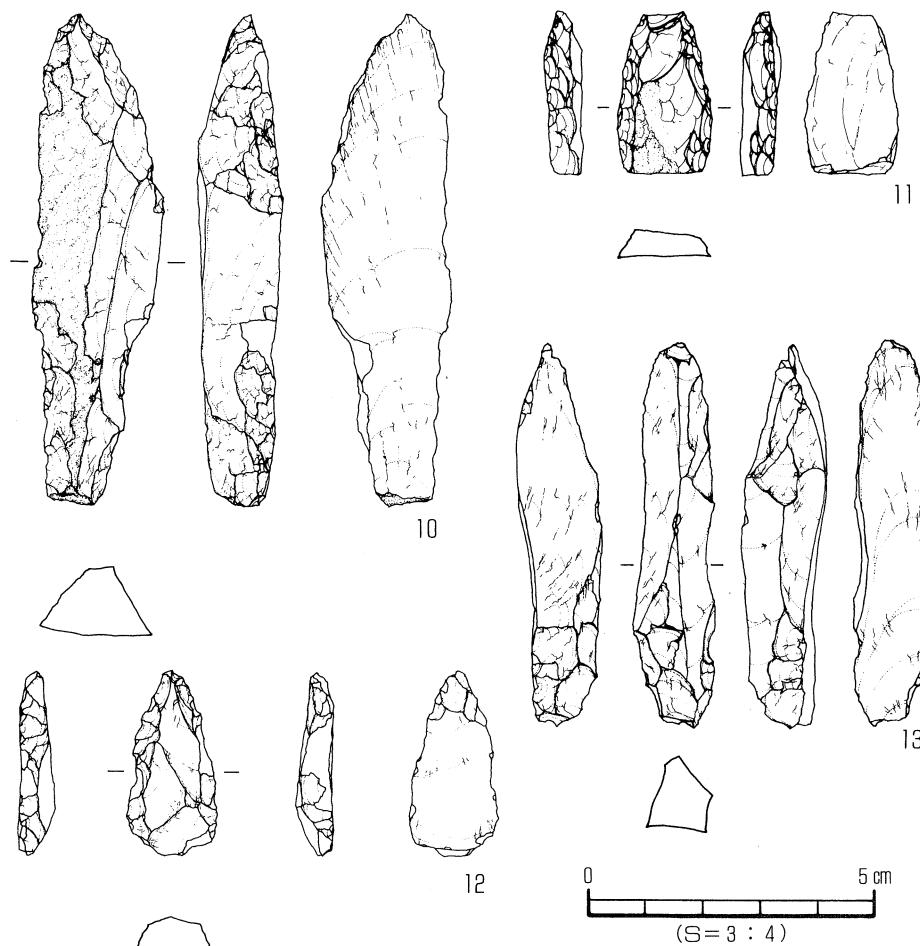
10は、サスカイト製の礫面を残す不定形縦長剝片を素材としたナイフ形石器である。右面は、ポジティヴ面でポジティヴ・バルブが発達している。背面は、石核調整時のネガティヴ面を残し、礫面を留める。整形調整部は、先端部と基部に意識的な作り出しの加工痕を有し、ポジティヴ面から比較的粗雑な整形加工が施されて角錐状石器（舟底形石器）を呈する。

11は、赤色チャート製の不定形横長剝片を素材としたナイフ形石器である。右面はポジティヴ面であり整形加工により打面がカットされている。左面は、素材剝片のネガティヴ面であり整形調整部は、両側縁に認められポジティヴ面から比較的入念な整形加工が施され断面三角形状の角錐状石器（舟底形石器）を呈する。

遺物観察



第41図 松山平野の旧石器時代遺物(2)



第42図 松山平野の旧石器時代遺物(3)

12は、サヌカイト製の不定形縦長剝片を素材としたナイフ形石器である。右面は、ポジティヴ面であり基部の作り出しによる整形加工により打面がカットされている。左面は、素材剝片のネガティヴ面であり剝離方向は一定の方向を定めない。整形調整部は、部分的に両側縁に認められ先端部と基部に意識的な作り出しの加工痕を有し、ポジティヴ面から比較的粗雑な整形加工が施され断面台形状の角錐状石器（舟底形石器）を呈する。

13は、サヌカイト製の不定形縦長剝片を素材としたナイフ形石器である。右面は、ポジティヴ面でポジティヴ・バルブが発達している。背面は、素材剝片のネガティヴ面を残し先端部と基部に意識的な作り出しの加工痕を有し、ポジティヴ面から比較的粗雑な整形加工が施されて角錐状石器（舟底形石器）を呈する。

ま　と　め

以上、現在までに検出された流域の一部ナイフ形石器の観察を行った。これらの遺物群の特長として次の点に留意することができる。近畿・西瀬戸地方のサヌカイト原産地を中心として西日本一帯に検出される瀬戸内技法を主体とした国府期のナイフ形石器文化の直接的影響を受けた資料として翼状剝片素材の国府型ナイフ形石器第40図1・3・4・5、さらに石材・素材剝片の違いは認められるものの比較的国府文化期の剝片剝離技術の影響を受け横長剝片素材に規制されたと認められる第41図6、石材・素材剝片の違いは認められるもの的小形ナイフ形石器として第41図7・第42図11・12、尖頭器的機能を有すると考えられる角錐状石器として第41図9・第42図10・13、剝片尖頭器的様相を持ち先端部と基部に意識的な整形加工が施された第40図2など、近畿・西瀬戸地域にみられる後期旧石器文化のナイフ形石器の形式変化に大きくは、差異が認められない。しかしながら、一般的な後期旧石器時代の瀬戸内的様相を呈するものの今後、石器組成や剝片剝離技術において十分な検討を要している。

まとめ

小野川流域に見られるナイフ形石器の一部資料を概観すると多彩な剝片剝離技術の存在を考慮することができ、従来言われている国府期の瀬戸内技法関連資料が主体を占めるとされた概念は捨てざるをえない。また、形態的にもバリエーションを持つことからかなりの時間差を前提とした資料操作の必要性を持つものと考えられる。調査時におけるこれらのナイフ形石器に伴う石核・剝片類の資料的価値認識の重要性とともに構造的理解の不足からユニット・ブロック認識がなされないまま放置されている石器群の位置づけがなされはじめて流域の旧石器時代様相の研究・解明が緒につくものと期待される。

また、サヌカイト原産地から遠く離れた当地域においての特長として石核・剝片の検出量が激減する状況にあり、在地の石材選択に際し石器製作に係る何らかの集団間の規制を考慮することもでき本地域の旧石器文化様相は、石材消費地として瀬戸内の旧石器文化研究の重要な位置を占めているものと考えられる。

現在のところ、こうしたナイフ形石器以外にも楔形石器と呼ばれる石器群の存在が解明されつつあり、共伴する土器を持たないことから旧石器的様相を持つものとして取り扱われている。現段階においてまだ石器群の詳細な状況を把握するには至っていないが、バイボラー・テクニックによる剝片剝離技術の存在は、確実に当地域の中で継続し縄文前期の段階まで山間部において継承されている。さらに、有舌尖頭器も平野部において検出されつつあり今後、微高地・低位段丘・埋没丘陵を含めた海拔約30M～50M平坦地位置において有舌尖頭器を石器組成とするユニット群の検出も近いものと考えられる。

小野川流域の旧石器文化と題して、筆者の不勉強から流域のナイフ形石器の資料紹介に終始し流域の旧石器時代に十分な検討を与えることができなかった事をお詫び申し上げるとともに資料提供にあたり梅木・山之内両氏に十分なご配慮頂きお礼申し上げます。また、特に小笠原氏には、作図・資料検討・執筆に渡り労を煩わし、深く謝意を表します。

〔参考文献〕

- 木崎 康弘 1988 「九州ナイフ形石器文化の研究－その編年と展開－」『旧石器考古学』37 旧石器文化談話会 PP.25-43
- 松藤 和人・柳田 俊雄・佐藤 良二・久保 弘幸・中川 和哉
1989 「座談会：近畿・瀬戸内地方における旧石器編年研究の回顧と展望」『旧石器考古学〈特集ナイフ形石器文化終末期の石器群〉』38 旧石器文化談話会 PP.3-18
- 柴田喜太郎 1989 「大阪府八尾南遺跡の堆積物の検討」『旧石器考古学〈特集ナイフ形石器文化終末期の石器群〉』38 旧石器文化談話会 PP.58-60
- 森本 晋・岡本 勝行・清水 和明
1989 「長原遺跡88-4次調査地出土の旧石器」『旧石器考古学〈特集ナイフ形石器文化終末期の石器群〉』38
- 松藤 和人 1974 「国府型ナイフ形石器をめぐる諸問題」『プレリュード』19 旧石器文化談話会 PP.35-49
- 奈良県立橿原考古学研究所編
1984 「二上山北麓石器製作遺跡の調査－清風荘第3地点遺跡・滝ヶ谷遺跡－」『奈良県文化財報告書』第42集
- (財)広島県埋蔵文化財調査センター
1989 「冠遺跡群〈D地点の調査〉」『広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書』第80集
- 加藤 晋平 1990 「東アジアの旧石器文化」『東アジアと日本〈特別考古学講座講演集〉』市制百周年記念 福岡市埋蔵文化財センター PP.4-21
- 萩原 博文 1978 「ナイフ形石器－統計処理による機能の推定－」『中山遺跡の研究(I)〈遺物篇1〉』 平戸市教育委員会 PP.1-26
- 大分県教育委員会
1982 「津留遺跡発掘調査概報－国道326号改良工事に伴う発掘調査－」
- 広島大学統合移転地理埋蔵文化財調査委員会
1990 「広島大学統合移転地理埋蔵文化財発掘調査年報VII」
- 絹川 一徳 1989 「徳島県土柱周辺の旧石器」『旧石器考古学』39 旧石器文化談話会 PP.55-63
- 飯島 正明 1989 「大阪府箕面市宮ノ原遺跡採集の角錐状石器」『旧石器考古学』39 旧石器文化談話会 PP.63-66
- 有本 雅己・有本 昭子
1989 「鶴峯荘第2地点東の新資料」『旧石器考古学』39 旧石器文化談話会 PP.75-76
- 吉村 公男・深瀬 早人・佐藤 良二
1989 「馬見丘陵におけるナイフ形石器の一例－奈良県河合町フジ山古墳付近採集－」『旧石器考古学』39 旧石器文化談話会 PP.77-76
- 八木 浩司 1987 「西八木層中の火山灰の起源」『国立歴史民俗博物館研究報告〈明石市西八木海岸の発掘調査〉』第13集 国立歴史民俗博物館 PP.95-102
- 八木 浩司 1987 「明石海岸の地形学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告〈明石市西八木海岸の発掘調査〉』第13集 国立歴史民俗博物館 PP.103-115
- 松藤 和人 1987 「西日本におけるA-T以下の石器群」『国立歴史民俗博物館研究報告〈明石市西八木海岸の発掘調査〉』第13集 国立歴史民俗博物館 PP.205-232
- 岡村 道雄 1987 「日本前期旧石器研究の到達点」『国立歴史民俗博物館研究報告〈明石市西八木海岸の発掘調査〉』第13集 国立歴史民俗博物館
- 十亀 幸雄 「愛媛県祝谷丸山遺跡の細石刃剝離技術」『古代学研究』第88号 PP.1-10
- 橋 昌信 1978 「大野川中流域における旧石器時代研究の基礎調査(1)－今峠遺跡－」『別府大学博物館報告No.2』 PP.15-22
- 井関弘太郎 1988 「沖積層・沖積平野の形成環境(総括)」『日本における沖積平野・沖積層の形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究』 PP.1-5
- 大森 博雄 1988 「日本島河川の縦断面曲線の関数形と沖積平野の類型との関係」『日本における沖積平野・沖積層の形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究』 PP.6-15
- 齊藤 亨治 1988 「第四紀末期における日本の扇状地礫層の堆積期」『日本における沖積平野・沖積層の形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究』